

平成24年度フェロー認定（25名）



氏名	浅野 健治
認定時の所属	日本ゼオン株式会社
抱負	<p>大学卒業後は高度成長期と重なり、化学会社において社内で新規開発された新製品について、パイロットプラントでの検討、本プラント設計、エンジニアリング会社を使用しないプラント建設、試運転実施後、製造課に引き渡す業務を行ってきた、中でも4プラントは世界初のプラントであった。</p> <p>仕事を通じて恵まれた環境のなかで、苦労を重ねたが幅広い分野の人と議論を重ね一歩ずつ業務を遂行することにより、自然と異分野の知識を吸収していき、現在では得難い数多くの経験も積むことが出来たため、それらを活かすべく化学工学会の継続教育プログラムのなかで、経験の浅い若手企業エンジニアを対象として、教育を実施してきた。</p> <p>この教育を実施していけばいくほど、大学では教えていないが、企業人としては習得していなければならない事項を教育するシステムが弱いと強く感じるようになり、もっと教育の幅と厚みを増すべきとの考えに至った。非常に微力ではあるが、この継続教育の充実に傾注したいと考えている次第である。</p>
氏名	有信 睦弘
認定時の所属	東京大学
抱負	
氏名	池田 駿介
認定時の所属	株式会社建設技術研究所
抱負	将来の我が国を担う工学系人材育成、世界工学大会WECC2015の成功、技術倫理の普及、などに取り組みたい。
氏名	岡本 孝司
認定時の所属	東京大学
抱負	

氏名	岡本 達希
認定時の所属	電力中央研究所
抱負	
氏名	笠木 伸英
認定時の所属	東京大学
抱負	
氏名	嘉門 雅史
認定時の所属	香川高等専門学校
抱負	わが国の工学者のもっとも古い自主的全国組織である日本工学会は、現在でも工学全般に亘る多くの課題に対して、果たすべき重要な役割がある。平成23年3月11日の東日本大震災による激甚災害とそれに起因し原子力発電所災害によって、今日ほど科学技術のあり方が問われている時代はない。課題は山積であり、最も重要なエネルギー・資源問題や地球温暖化を含む自然環境問題をはじめとして、基本的な人材育成の課題へ積極的に取り組まねばならない。特に、市民へ科学技術をより詳しく、また分りやすく出来る事と出来ない事を説明することが肝要である。フェローとして、微力ながらこれらの課題に取り組んでゆきたい。
氏名	川島 信之
認定時の所属	日本化学会
抱負	
氏名	岸 輝雄
認定時の所属	物質・材料研究機構
抱負	
氏名	桑原 洋
認定時の所属	日立マクセル株式会社
抱負	
氏名	小間 篤
認定時の所属	秋田県立大学
抱負	
氏名	田井 一郎
認定時の所属	株式会社東芝
抱負	
氏名	高田 光雄
認定時の所属	京都大学
抱負	

氏名	谷下 一夫
認定時の所属	慶應義塾大学
抱負	<p>先端的な工学技術の進展が、医療現場を驚くべき程に変革しており、これまで診断治療が困難であった病気を治せる時代になっている。2000年に、米国製の手術ロボット「ダヴィンチ」が出現して、医療者を驚かせたが、最近では、「ダヴィンチ」の性能を凌駕する日本製の優れた手術ロボットが複数開発されて、医療現場で威力を発揮し始めている。このように、日本発の医療機器の創出が進展しているが、全体的には依然として、医療機器の輸入超過が目立っており、特に、優れた海外製の治療機器が多く輸入されている状況が続いており、医療分野においては、日本のものづくりの優位性が生かされていない。この最大の原因は、依然として医工連携が十分に達成されていない状況が続いている事であるが、円滑な医工連携を達成するためには、社会に中立的な立場の学会の役割が極めて重要である。そこで、日本工学会のご支援の下で、工学系の学会と臨床医学系の学会とが連携する活動を2011年から3年間実施させて頂いた。その後、臨床医学の学会（内視鏡外科学会、日本整形外科学会、日本骨折治療学会、脈管学会など）と工学系の学会（日本機械学会、日本コンピュータ外科学会、ライフサポート学会など）とが連携するイベントが多数開催されて、医療者、工学者、産業界、官界の方々が交流出来る場を構築する事が出来ている。今後とも、このような学会連携を通して、医工連携を円滑に加速させ、日本の医療産業の進展に貢献する事を願っている。（令和6年9月更新）</p>
氏名	筒井 康賢
認定時の所属	高知工科大学
抱負	
氏名	中島 正愛
認定時の所属	京都大学防災研究所
抱負	<p>&lt;フェロー認定時の抱負（2012年）&gt; グローバル化が加速するわが国の将来を担える若手人材の育成とその奨励に取り組みたい・・・私は20歳代に数年間米国で生活するという幸運に恵まれた。そこで得た刺激は強烈で、「コスモポリタン」として生きることの難しさと醍醐味の一端を、若年時にかいま垣間見ることができた。その後日本に戻り、建設省、神戸大学、（独）防災科学技術研究所、京都大学で研究教育に勤しんできたが、特に大学では、自らの経験を次世代に伝えたいとの思いから、英語による教育、英語圏への留学の奨励を心がけている。具体的には、わが国の大学院生に対しては「コスモポリタン」として世界を渡り歩ける人材の、また外国人留学生に対しては「日本通」として将来母国で活躍できる人材の養成に腐心してきた。現在までに、研究室に所属した大学院生の6名が米国でPh. D. もしくはM. S. を修め、また米国、ドイツ 等から13名のポスドク（うちJSPS海外特別研究員9名）を受け入れた実績がある。このように自らができる範囲では、「グローバル社会における日本のプレゼンスの保持と向上に資する人材育成」に務めてはいるものの、「わが国のガラパゴス化」が最近取りざたされるように、日本国内にとどまる鎖国傾向、好き嫌いを越えて英語が国際語であるにも関わらず日本語に終始する傾向は、特に若年層でますます加速している。そしてそれが、かつて「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と賞賛された日本が、今では国際社会において無視されることがかかっても多くなった原因の一つになっていることに疑いはない。私は、自らの思いと経験と実績を基盤として、個人の枠を超えた日本工学会という組織のなかで、グローバル社会で堂々と発言し、そして世界をリードしてゆける若手研究者・技術者の育成を促進するための環境整備に微力を尽くしたい。</p> <p>&lt;12年を経た今（2024年）なにを思う&gt; このたび日本工学会より、同会フェロー認定時に提出した抱負を同会のホームページに掲載することへの可否について問い合わせをいただいた。同会に参加した12年前に私が何を思っていたかを思い出すこととなり、恥ずかしくもあるけれども「案外まともなことを考えていたのか」と安堵もした。自身は2017年に大学を定年退職したが、それまでに12名の日本人大大学院生を海外の大学に大学院生もしくはポスドクとして派遣するとともに、45名の博士課程学生、ポスドク、研修生を海外から受け入れた。退職後は民間の研究開発コンサルの経営に携わっているが、上記の抱負は幸いにも過去のものとはならず、北米や欧州の研究機関との共同研究を通じて、日本の若人達を海外の雰囲気にも晒す環境造りに励んでいる。世界に伍して自らを主張できる日本人の育成と、日本と日本人の心を理解できる外国人の養成は、今もなお社会人としての私の行動の中核をなしていることを思い知った。</p>

氏名	並木 雅俊
認定時の所属	高千穂大学
抱負	
氏名	平山 次清
認定時の所属	横浜国立大学
抱負	
氏名	別所 信夫
認定時の所属	JSR株式会社
抱負	
氏名	真壁 利明
認定時の所属	慶應義塾大学
抱負	
氏名	松瀬 貢規
認定時の所属	明治大学
抱負	現在 日本工学会 科学技術人材育成コンソーシアムの副代表として活動中である。 今後も活動を継続する予定でありこの活動を通して社会貢献を果たしたい。
氏名	南 一誠
認定時の所属	芝浦工業大学
抱負	
氏名	村上 章
認定時の所属	京都大学
抱負	
氏名	村瀬 治比古
認定時の所属	大阪府立大学
抱負	
氏名	和田 章
認定時の所属	東京工業大学
抱負	